Tokyo OT
2024 January No.214

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　田中勇次郎

雲外蒼天

東京都作業療法士会
区東部・東北部
ブロック長
大瀧　直人

謹んで新春をお祝い申し上げます。2023年は新型コロナウイルス感染症が「第５類感染症」となり、行動制限が撤廃されました。また、会議や学術大会、研修会などオンラインを中心とした内容が徐々に緩和され、３年ぶりに東京都作業療法学会が対面開催となり学習の機会においても日常に戻ってきています。

さて、日本作業療法士協会は2022年、専門作業療法士に「脳血管障害」を新設しました。私はコロナ禍における第一回の試験で、脳血管障害の専門作業療法士を取得しました。

私が、脳血管障害に関わったのは、2011年、当時勤めていた病院から一年間、大学病院に研修目的で出向となったことがきっかけでした。当時新人だった私にとって、現在の病院から大学病院に転職することは大変な不安がありましたが、最新のリハビリテーション医学やベテランの作業療法士から新しいことが学べる期待が勝り、決断したことを記憶しています。そこでは、生活期における軽度から中等度の上肢運動麻痺に対し、経頭蓋磁気刺激と作業療法の組み合わせで行う「NEURO®」という治療を行なっていました。当時のことを振り返ってみると、困難なことも多くありましたが、医師や先輩からの指導、研究を含めた経験が現在、様々なことに興味を持つきっかけとなっていると大変感謝しています。

タイトルに挙げた「雲外蒼天」は、藤井八冠が、岸田首相に総理大臣顕彰のお礼の品として将棋盤と将棋盤の蓋に「雲外蒼天」と書かれたものを手渡した際に注目を集めた四字熟語です。意味は、どんな試練でも、努力して乗り越えれば快い青空が望めるという意味です。まだ私は青空を望める様な立場ではありませんが、試練に立ち向かっていくことは、苦しいこともあれば大きな壁にぶつかることもあり、一人で解決することは難しいことも多いです。私も現在、新しいことにチャレンジをしていますが、家族や同僚、友人、ブロック委員の皆様に支えられて行えています。2024年、新しいことにチャレンジしようと考えるタイミングです。皆様も辛いことや落ち込むこともあるかもしれません。そんな時は、ブロック活動を通して他の施設で働いているOTの方々と交流し解決できることもあるかもしれません。ブロック委員に興味のある方は東京都作業療法士会のホームページよりお問い合わせください。

最後に2024年６月13日-16日に東京都渋谷で第61回日本リハビリテーション医学会学術集会が開催され、最新のリハビリテーション医学を学ぶ機会がございます。ぜひ一緒に学びましょう！

第61回
日本リハビリテーション
医学会学術集会

経頭蓋
磁気刺激治療
について

東京都
作業療法士会 HP

CONTENTS

◆雲外蒼天…❶
◆第20回東京都作業療法学会に向けて新年のご挨拶…❷
◆16歳の仕事塾　活動報告…❸
◆事業部主催研修会
「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術
～OT向け入門編：NISAとiDeCoの活用～」のお知らせ…❹
◆教育部からのお知らせ…❹
◆子ども委員会活動報告…❺
◆＜再開催決定！＞
地域づくり人材育成研修　実践基礎編
～開催報告と２回目開催のお知らせ～…❺
◆認知症アップデート研修について…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.42…❻
◆保険部 Letter
～特別支援教育へのOTの関わり方について～…❼
◆東京都作業療法士会福祉用具部主催
《福祉用具部研修会のご案内》…❼
◆墨田区社会福祉協議会主催の
ハンディキャブ講習会で講演と体験会の実施…❽
◆就労支援委員会主催　研修会のお知らせ…❽
◆2023年度災害時を想定した
シミュレーション訓練の実施報告…❾
◆ブロック活動のお知らせ…❿
◆編集後記…⓬

第20回東京都作業療法学会に向けて新年のご挨拶

イムス板橋リハビリテーション病院　**松澤　良平**

新年あけましておめでとうございます。本年も、皆様にとって充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、2002年に東京都作業療法学会が始まり、２年毎に開催された時期やコロナ禍で開催のなかった年もあり、今回が20回目となります。今年も東京都作業療法学会は、様々なイベントや研究発表を通じて、作業療法に関する最新の知識や技術を共有し、東京都の発展に寄与してまいります。本学会は区西北部ブロックが運営を担当いたします。私は､大会長を拝命したイムス板橋リハビリテーション病院の松澤良平と申します。皆様、どうぞよろしくお願いします。本号では今年の都学会に向けて、アナウンスをしたいと思います。

日　付：２024年７月14日
場　所：帝京平成大学池袋キャンパス（予定）
テーマ：Occupation based

web サイトはこちら

テーマの「Occupation based」とは、作業療法の実践過程で、作業そのものを用いることを表しています。

まず、東京都とはどのようなところかを考えました。山、川、海、島といった地理。都市、田園、工業といった経済。永田町、霞ヶ関など日本の政治の中心。多国籍で、多様なアイデンティティの人々。公共交通機関、インフラ、エンターテイメント施設、歴史、文化の数々。東京にはあらゆる「作業」があり、全国の縮図のように見えます。そして、東京都作業療法士会の会員数は3,848名（日本作業療法士協会会員統計資料2023年３月31日現在）で全国No.1です。あらゆる作業を、多くの作業療法士が支援している東京から全国に発信したいと思いました。

それから、作業療法が関わる現在の制度のアウトカムについて考えました。例えば、回復期リハビリテーション病棟のアウトカムはいくつかありますが、作業療法士が関わる重要な指標の１つにFIM利得と在院日数から計算される実績指数というものがあります。また、介護保険分野では、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを修了した先の社会参加に資する取り組みに繋げることがあります。このように、対象者の作業そのものに関わることがアウトカムとして評価される時代となっています。

別の視点として、職域の広がりも感じています。実習や日本作業療法学会で出会った学生から就職先の話を聞いた際に、複数名が放課後デイサービスに決まっていると聞きました。また、知人は就労支援施設や行政に勤務しています。

そのような背景から全ての作業療法士に共通する「作業（Occupation）」をテーマにしたいと思いました。

ところで、皆様はどのような作業をしていますか？私は、年末年始は新幹線で実家に行き、母が作ったお雑煮とおせちを食べ、父や兄妹と会話し、子や姪たちと凧揚げして遊んでお年玉を渡しました。久々に会って家族と話をしたり、凧が上手く上がった時の達成感を感じたり、いや～毎日楽しかったな。

作業そのものをしている時は、ポジティブだったり、ネガティブだったり、様々な感情があります。ただ、それも作業に取り組んでこそ湧き上がるものです。

私たちは作業に取り組めない方や、取り組んでも上手くいかない方達を対象者にすることが多いです。この冬、私のクライアントが上着のファスナーを留められるようになった際に「小さなことでも何か１つ自分でできると嬉しいもんですね」と話してくれました。

作業に取り組む瞬間、上手くできるようになる瞬間に何物にも変え難い歓喜が沸き起こります。今年の学会では、Occupation basedによって生じる歓喜の瞬間を分かち合い、学術的な検討を経て、様々な現場で再現できるように、講演やシンポジウム、一般演題の発表が予定されています。また、ワークショップなどを通じて、参加者同士の交流と知識の共有を促進します。

是非、ご自身の専門分野における知見を深め、参加者同士の新たな連携連帯の可能性やアイディアを模索してみてください。

ご参加を心よりお待ちしております。学会の詳細なプログラムや参加申し込みについては、本学会のウェブサイトやSNS（(X（旧Twitter)、Facebook)）をご覧ください。何卒よろしくお願いいたします。

X（旧Twitter）　　Facebook

フォローよろしくお願いいたします！

16歳の仕事塾　活動報告

東京YMCA医療福祉専門学校　作業療法学科教員　**温井　恵**

自分が16歳の時、何を考えてこの道を志したのか？私は年に数回、そのように自分が16歳だった頃を振り返り、当時の思いに浸れる機会を頂いております。NPO法人16歳の仕事塾という高校生のキャリア教育を支援する取り組みに、社会人講師として参加させて頂き、2021年から高校生の生徒さんに、自分が16歳だった頃の話、そこからなぜ作業療法士を目指したのか、今の仕事の取組みや、そのやりがいをお話させてもらっています。

「NPO法人16歳の仕事塾」は、2009年より高等学校でキャリア教育の支援活動を行っている団体で、生徒が安心できる学校という“場”にこだわり、ファシリテーターが間に入ることで、社会人講師との橋渡しもして下さりながら、生徒さんの思い、仕事に対する気持ちを引き出してくれます。

多い時では１～２回/月の頻度で、主には都立高校の１～２年生の１クラス（40名程）を担当し、話をさせてもらい、作業療法士協会のパンフレットを配布するというのが流れとなっています。そして話を元にファシリテーターの上手な誘導で生徒さんが質問を考え、インタビュー形式で進行するのですが、本当に色々な側面から職業について聞いてくれ意見をくれます。

質問の中では「辛かったこと、楽しかったこと」「給与」という職業の質的な部分が多く、「やりがい」「好きな事を仕事に」という気持ちがありつつも、現実的な質問を投げかけてくれる印象を持っています。また、ご意見の中で一番多いのが「作業療法士という仕事を知らなかった、初めて知った」というもので、まだまだ認知度の低さを感じています。協会のパンフレットを毎回40名の生徒さんに配布しているので、少しでもご家族や、ご友人や色々な方の目にとまり、作業療法士について知って頂く機会になればという思いでおります。

医療、福祉、教育、地域という様々な場所で作業療法士が必要とされており、養成校教員という立場でも大変多くの求人を頂いております。これだけ求められているのに認知度が低いというところは私達１人１人が、そして組織として大きな課題として捉えていくべきだと感じております。今後も活動として継続していき、若き人材育成へ努めてまいりたいと思っております。

事業部主催研修会「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術～OT向け入門編：NISAとiDeCoの活用～」のお知らせ

みなさんは将来へ向けてお金、資産形成についてどのように考えていますか？
「そもそもなにからはじめたらよいかわからない」
「どのように資産形成を行っていけばよくわからない」
「iDeCoやNISAは何かお得な感じがするけどよくわからない」
というようなことはありませんか？

今回事業部では都士会員向けのオンライン研修会「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術～OT向け入門編：NISAとiDeCoの活用～」を2024年２月８日（木）18時30分から開催します。

講師にはファイナンシャルプランナー（CFP・１級ファイナンシャル・プランニング技能士）の塚越菜々子氏をお迎えして、iDeCoやNISAなど資産形成の基本的な部分をわかりやすく教えていただきます。研修会では質疑応答の時間を設ける予定です。講義内容への質問をはじめ、お金のことでよくわからない、日頃気になっていることなどを直接お聞きすることができます。

主に20代後半から30代を想定した研修会ですが、他の年代の方にも参考となる内容になっています。身近で大切なお金のことを学べる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

※研修会の詳細及び申し込みに関してはこちらのQRコードよりご確認ください。

教育部からのお知らせ

【現職者共通研修（事例検討・事例報告）】

１．開 催 日：2024年２月18日（日）、10時30分～12時00分
２．開催形態：Zoomによるオンライン研修
３．参 加 費
　会員1,000円、非会員2,000円　＊詳しくは都士会HPをご確認ください。
４．定　　員：事例検討９名、事例報告９名

＊現職者共通に関するお問い合わせ先：kyo.2ken@gmail.com（担当：太田、二村）

【発達障害領域　基礎研修】

●日　　時：2024年２月25日（日）９：00～12：10
●研修方法：Zoomによるオンライン研修
●テ ー マ「OTが知っておきたい医療的ケア児への支援～」

申し込みは都士会HPにて掲載します。

子ども委員会活動報告

担当理事・東京都立大学　**伊藤　祐子**

子ども委員会では、2023年度の活動として、７月に第19回東京都作業療法学会での企画『「かく」について考えてみよう～「かく」という活動を通して、いろいろな視点からアセスメントの仕方を考える～』、９月に特別支援教育関連の「学校×作業療法 ～外部専門家連携の実際～」研修会を久しぶりに対面で実施しました。都士会学会企画に関しては、現役学生からベテランの作業療法士まで幅広い参加者により活発なディスカッションが実施され、「かく」という一つのテーマを軸にして、作業療法士が関わる多様な臨床や、疑問、クライエントのニーズなどが語られました。このようなざっくばらんに話ができる機会は、発達に関わる作業療法士にとって貴重な場であることを実感しましたので、今後の企画にも取り入れたいと思います。学校×OT研修会では、現在、協会が推進している学校での作業療法に対する現状を説明し、東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課よりお招きした講師からは都立学校における特別支援教育の現状や課題についてのお話があり、年々変わりゆく状況を理解するとともにより良い連携について考える機会となりました。

今年度中に、もうひとつ子ども委員会主催の研修会を企画しています。テーマは、「ヤングケアラーときょうだい支援（仮）」とし、2024年３月24日（日）の午後に対面実施予定で準備を進めています。詳細が決まり次第、ホームページやFB、LINE、Twitterなどでお知らせするのでぜひご参加をご検討ください。

<再開催決定!>地域づくり人材育成研修　実践基礎編

～開催報告と２回目開催のお知らせ～

地域づくり共創部　**春口　麻衣**

９月30日地域づくり人材育成研修の第２弾「実践基礎編」を開催しました。今回の研修では区部と市部の２拠点で、対面＆オンラインのハイブリッド同時開催という新しい試みでした。

内容は、①コミュニケーション、②医学的知識、③福祉用具、④移動支援、⑤認知症支援、⑥地域支援の実際　と、地域支援に活かせる多岐にわたるOTの支援技術についての講義と事例検討で、グループワークを通して実際の地域支援を考えました。

久しぶりの対面研修で、講師の熱い志を直接感じながらグループワークやその他の時間を通して、大変充実した研修会になりました。

昨年度から始めた「地域づくり人材育成研修」基礎編修了者である”地域づくりサポーター”も、11月現在、200名を超えました。地域で活躍したい、活躍のために準備をしているOTがどんどん増えてきています。東京全体に、OTの支援を届けたいですね！

好評につき、１/14に「実践基礎編」の２回目を開催致します。なお、地域づくり共創部では３部構成の”地域づくり人材育成研修”の最終章「実践編」の実施に向けて鋭意準備中です。詳細は都士会ホームページに掲載予定です。楽しみにお待ちくださいね！

皆様のご参加をお待ちしています！

認知症アップデート研修について

認知症の人と家族の生活支援委員会委員　**内田　達二**

12月３日に2023年度の認知症アップデート研修会（以後、UD研修）がオンラインで開催された。東京都作業療法士会では、2017年よりUD研修を開始し、以降、ブロックに運営協力を頂きながら年１-２回ずつ継続している。今回は、西多摩・南多摩ブロックに担当頂いた。担当の皆様、参加者の皆様、どうも有難うございました。

本研修は、当時、協会の特設委員会（認知症の人の生活支援推進委員会）から、OTが臨床場面で認知症のあるクライエントに適切なサービスが提供できるようになることを目的に研修要綱、資料が提供され、全国で開催されている。今回もその要綱に基づいた内容とした。

研修の到達目標は、１）世間一般（世界、日本）の中で認知症の人が置かれている現状の把握、２）認知症の最低限の医学的、症候学的特徴の理解、３）BPSDへの対応方法を精神病理的、環境要因的視点から考える、４）最低限の薬物、非薬物治療について知る、５）医療保険、介護保険、地域（家族支援も含）における認知症OTの実践と課題について最低限の内容の理解、であり、４名の委員が講義を担当した。また、ブロックのオリジナル企画として、MCI通所プログラムの紹介とプログラム体験が実演された。

アップデート研修修了者には、終了証が発行され、都士会を通して協会に登録される仕組みとなっている。多くのOTが、認知症に対する理解やアプローチについての知識、技術の普及を図れるよう、今後も継続していきたいと考えている。ブロックの皆様のご協力ならびに会員の皆様のご参加をお待ちしています。

認知症にやさしい本の紹介　VOL.42

川崎市立宮前図書館　館長　**舟田　彰**

『おばあちゃんのさがしもの』

文/おち　とよこ　絵/ひがし　なな

先日、認知症地域支援推進員の知人から小学生向けおすすめ本の紹介依頼があった。認知症に関する絵本はとても興味深い。さて、この作品は2000年に出版され、すでにご存じの方も多くいらっしゃると思う。著者の介護などの本は読んだことはあるが、絵本はなく、どのような内容か気になった。物語は５人家族で、孫娘のとも子は祖母のおばあちゃんが大好きである。しかし、徐々に認知機能が低下し、様々なことが起こる。そして、とも子は心配になる。しかし、母親が子どもたちへおばあちゃんの状況や接し方を説明し学ぶ。後にけがをしたおばあちゃんは入院。入院中にスカートを探してほしいとのことで、とも子は自宅の中を探した。スカートはなかったがとも子宛の誕生日プレゼントとしてお手玉と手紙が出てきた。とも子のとった行動に私は微笑ましく感じた。退院後、昔使っていたおばあちゃんの「こうり」を持ってきて、中に入っている人形を手に取ると抱いて、昔のことを思い出し、子守唄を歌い始めたのである。お父さんが言う。おばあちゃんは時々昔の自分に会いに行っているから心配しなくていいと話した。そして、とも子は「おばあちゃんが何か探し物をしているような気がする」という。私はとも子の最後の一文がとても強く印象に残った。腑に落ちた感じである。著書の最後に認知症の解説があり、とても理解しやすい。改めて、物語の流れは今もずっと普遍的であると感じた。

保険部 Letter ～特別支援教育へのOTの関わり方について～

保険部　住田多恵子

近年、発達分野でOTが学校に関わる機会が増えてきており、関わり方について紹介します。

①外部専門家モデル：自分の所属施設に在籍したまま派遣されるか、OT自身が学校と非常勤契約を結ぶ。回数・頻度・時間は予算希望により様々。

②教員として

・エリア配置モデル：そのエリアのセンターとなる特別支援学校に配置される。その学校に通学する生徒に対しての学校支援と、地域のセンターとして校外支援を担うことが期待される。（OT資格を取得する以前・以後に教員免許を取得し、ダブルライセンスで教員として採用される。）

・自立活動専任教諭として採用されるモデル：１回/２年に実施している特別支援学校教員資格認定試験制度を活用して教員免許を取得するものもおり、聴覚障害教育および肢体不自由教育の自立活動の担当免許状を取得し、主に自立活動の担当教員として配置される。

③教育委員会採用モデル：専門家チームを設けてその一員としてや、巡回相談制度を整えるなどOTの関わる場面を設けている場合がある。数は少ないが、教育委員会がOTを雇用する地域もある。

④日本作業療法士会として期待するモデル：①～③のモデルを参考にして学校作業療法士モデルを提案している。現状、非常勤での勤務が多く、身分保障が不安定である。継続的・安定的雇用とはなりにくいので常勤職を目指し、幅広い子どもたちに関わり、供給可能性があるスタイルとして提案している。

参考文献：作業療法マニュアル65. 特別支援教育と作業療法―学校を理解して支援するために―
日本作業療法士協会、2018

東京都作業療法士会福祉用具部主催
《福祉用具部研修会のご案内》

ADLシーン別研修は2017年から開始し、トイレ、浴室など様々なシーンで福祉用具の使用方法を学んできました。

シーン別研修は１周しましたので今回再び「居室・寝室編」を実技中心で開催いたします。

「ADLシーン別研修『居室・寝室編』」
～起居・移乗に関する福祉用具の基礎と使用方法～

☆対　　象：日本作業療法士会会員かつ、東京都作業療法士会の会員、または他県士会の会員
☆参　加　費：1,000円（東京都作業療法士会会員、他県士会員）それ以外　2,000円
☆開 催 日 時：2024年２月10日（土）　９：30～16：00予定（受付９：15～）
☆OT協会基礎ポイント：２ポイント付与
☆場　　所：東京都立大学　荒川キャンパス　　校舎棟３F　看護実習室１
☆定　　員：30名（先着順）動きやすい服装で起こしください
☆内　　容：・ベッドズレ体験、圧迫の除去、シートを使用しての上方移動方法の習得
・移動用手すり、床から立ち上がり用手すり体験、移乗ボート、シートを使用して移乗動作の習得
・リフト　※今回は「リフトの基礎」が中心、リフトの注意点、スリングシートの選定、様々なスリングシートの体験
来年度は、実践編として様々なリフトメーカーにお越し頂き体験型の研修会を予定しています。
☆申 し 込 み：イベントペイ　下記URLまたはQRコードから
U　R　L：https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5238587945919649&EventCode=P583315836
☆申 込 締 切：2024年２月３日（土）
☆問い合わせ先：tokyo.ot.yougu@gmail.com

墨田区社会福祉協議会主催のハンディキャブ講習会で講演と体験会の実施

自動車運転と移動支援対策委員会　大場秀樹／永島　匡

10月14日（土）に墨田区社会福祉協議会（以下、社協）にある、すみだボランティアセンターが主催する「ハンディキャブ講習会」が開催されました。

社協では車いすのまま乗車できる車、ハンディキャブを４台保有しています。墨田区在住で車いすを利用している方は、登録を行えば利用が可能です。ですが、地域に十分周知されていない課題がありました。また運転者がいない場合は、運転ボランティアの派遣をしていますが、この運転ボランティアの方が少なく、使いたいときに利用できない課題もありました。そこで、住民同士で移動を支え合う地域づくりのお手伝いとして、「地域の移動支援と障害を知る」というテーマで講演と体験会を行いました。

今回の講習会を企画した背景には、永島氏が町田市で、仕事を引退した地域の高齢者をデイサービスやサロンの送迎ドライバーとして認定して、地域住民の役割を作り、地域で移動を支え合っていく目的で実施する「町田市地域支え合い型ドライバー養成研修」の講師を務めていました。この経験は、他の地域で発展できる可能性を感じています。

講習会終了後、２名の運転ボランティアが増えて、今後さらに地域移動の担い手が増えればと期待しています。また、次年度も当委員会と講習会を開催する予定です。今後も、移動への地域支援を推進していきたいと思います。

就労支援委員会主催　研修会のお知らせ

就労支援委員会　尾崎

今年度も、あっという間に残すところわずかとなりました。障害者雇用促進法の改正により、2024年４月からは民間企業の法定雇用率が2.5％へ引き上げられ、また週所定労働時間が10時間以上20時間未満の特定短時間労働者（精神障害者、重度身体及び知的障害者）が新たに算定対象となるなど、障害者雇用を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。新たに障害者雇用に乗り出す企業も今後増えていくことが予想され、就労支援に携わる者として、当事者のことのみならず、企業側の視点を理解することがより一層不可欠となると考えております。

そこで、今年度の就労支援委員会主催の研修会では、障害者雇用を初めて経験されたアーツアンドクラフツ株式会社の中村友美様（人事総務部　マネージャー）にざっくばらんなお話を伺い、企業の視点からみた定着支援に求められることについて考えていきます。当事者で高次脳機能障害をもちながら働く斎藤さんと就労支援機関の担当者も登壇し、三者の奮闘ぶりを聴きながら、障害者雇用のリアルを皆さんにお届けしたいと思います。

詳細は今号同封のチラシや都士会ホームページをご覧ください。皆様のご参加を是非お待ちしております。

テ　ー　マ：「はじめての障害者雇用　～中村さんと斎藤さんの経験からみた就労支援～」
日　　時：2024年２月12日（月・祝）　14：00～16：00
開催方法：オンライン（Zoom）

2023年度災害時を想定した シミュレーション訓練の実施報告

都士会災害対策担当（保険部担当理事）　**松岡　耕史**

都内で大規模災害が発生した際のリハ支援に関して

都内で大規模災害が発生した際（震度５強以上や豪雨災害などで避難所がいくつも開設されて被災の影響が長期間続くことが想定される場合）に、会員の安否・被災状況の確認を都士会で実施します。

その後、安否・被災状況の情報はOT協会と日本災害リハ支援協会（JRAT；OT協会やPT協会の他にリハ医学会や技師装具協会などが構成団体）と共有致します。

それにより、以下のように物的支援と人的支援を実施することになります。

＜物的支援＞

避難所に対して、段ボールベッドや簡易手すりの設置、杖の提供など、環境や要支援者を考慮した支援をします。病院や施設に対しても必要に応じて杖や歩行器などの物品の提供などをします。

＜人的支援＞

被災状況によって、病院や施設に勤務しているOTが通常と同じように出勤できないことも想定されます。しかし、入院･入所の対象者はいるため、長期間リハを実施できないと廃用が進んでしまいます。そのため、病院や施設の状況を把握させていただきOT協会やJRATに登録しているリハ支援ができる人材（OTだけでなくPTやSTも含めたボランティアスタッフ）を派遣して病院や施設でのリハ提供ができるようにしていきます。

また、避難所では長期間の避難所生活で生活が不活発になりリハ支援が必要な方に対してもリハ職を派遣する必要がありますが、被災直後に近隣の病院・施設に勤務しているOTが対応することは難しいことが多いです。それらに対しても登録されている人材を派遣してリハ支援を実施していきます。

これらの物的・人的支援がスムーズに進むように、年に１回、全国の都道府県OT士会が一斉に災害発生を想定してそれぞれの士会員の安否や被災状況を確認する災害時シミュレーション訓練を実施しています。

2023年度 災害時を想定したシミュレーション訓練の結果

2023年度は９月25日から10月末においてシミュレーション訓練が行われ、東京都OT士会では以下の方法で会員の安否を確認しました。

①都士会Faxの配信（東京都内のOTが在籍している施設・病院へ都士会Faxを送信）
②ブロックと連携した連絡（各ブロックの災害対策の担当者を中心にブロック内で連絡）
③災害時連絡用メールの配信（災害時連絡用メールに登録している会員へ個別に連絡）

訓練結果（カッコ内は昨年度）

＜安否が確認できた会員数＞　1,246名/2,554名：48.8％（58.3%）

＜ブロック別実施率＞
- 区東部・東北部：66.2%（74.4%）
- 区中央部・南部・島しょ部：40.1%（56.9%）
- 区西北部：56.2%（46.1%）
- 区西部・西南部：41.6%（54.7%）
- 北多摩：53.0%（48.3%）
- 西多摩・南多摩：61.2%（64.7%）

シミュレーション訓練にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。引き続き都士会の災害対策に関しましてご協力の程宜しくお願い致します。

ご連絡・お問い合わせ先：tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（災害対策担当：松岡・永吉）

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

松下　泰輔

新宿のブロック委員の発案で11月17日に「新宿OT会～広げようOTの輪」を開催しました。参加者は病院だけでなく、訪問リハビリ、放課後等デイサービス、区役所など様々な方々が集まりました。

初開催でしたが、所属している病院・施設の紹介が中心で、自分が所属している病院以外の取り組みを知ることができ、OTとしてのアプローチに幅があることを再認識しました。参加者それぞれの知識や経験を共有することで、自施設だけでは解決できなかった問題へのアイデアや地域でのOTとしての活動を広げることができるのではないかと思いました。　今回はオンラインでの開催でしたが、今後は対面での開催も予定しています。新宿区としての取り組みを顔を見合わせて話し合うことができればと思っています。参加者の中には中堅からベテランの方々が多かったため、次回は若手の方々の参加もお待ちしています！皆さん経験豊富で優しい方ばかりでしたので、気兼ねなくご参加ください。また、ブロックでも研修会の開催やイベントを行なっていますので、ぜひご参加ください！委員会活動に興味がある方もお待ちしていますので、下記までご連絡ください。
（seibuseinanbu.ot@gmail.com）

区西北部ブロック

佐藤　勇希

皆様こんにちは！ブロック委員の佐藤と申します。区西北部ブロックでは、来年度開催予定になっています第20回東京都作業療法学会の開催運営に向けて準備をさせて頂いています。11月15日に第３回目実行委員会議を開催し、会場視察・企画検討を行いました。会員の皆さんと一緒に節目である学会を盛り上げていければと思いますので、学会情報の拡散を宜しくお願いします。また、Facebook等のSNSでも情報を発信していきますので、是非「フォロー」「いいね！」を宜しくお願いします。

◇第20回東京都作業療法学会◇

会　　期：2024年７月14日（土）
会　　場：帝京平成大学
学　会　長：松澤良平
実行委員長：山下高介
テ　ー　マ：『Occupation based』
作業に根ざした実践の魅力を発信できるように、企画運営していきたいと思います

区東部・東北部ブロック

峯浦　花織

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。縁があり、区東部・東北部ブロック委員会に参加させていただき、１年近く経ちました。慌ただしくも研修会の準備など多くの体験をさせて頂き、参加することにより色々良い刺激を頂きました。最近では昨年12月に働くパパママの働き方についての研修会を行い12名ほどが参加されました 。パネルディスカッション形式で堅苦しくなく、他職場の方の様々な意見が聞けて､大変ためになりました。今後も１月26日（金）に『生活を豊かにする「他職種連携のコツ」』を、２月にはMTDLPの研修会を実施する予定です。１月の研修会は昨年８月に実施した研修会の第２弾で、他職

種連携をテーマに講義とシンポジウムで行う予定です。いずれも研修会を通じて他職域や他職場のOTの話を聞くことにより、自分自身の仕事を振り返り、身近な悩みや困りごとを共有して解消するヒントになるのではと思います。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

区中央部・南部・島しょブロック

山本　司（東京医科歯科大学病院）

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。昨年は都学会の担当ブロックとなり、大変でしたが、とても勉強になった１年でした。今年の都学会は区西北部ブロックが担当です。区中央・南部ブロックも協力できることがあれば、ブロックの垣根を超えて協力していきたいと思います。さて、当ブロックでは新たな研修会や繋がりをつくる企画をいくつか考えております。今年も皆様の臨床の一助となるように、ブロック委員で頑張りたいと思います。最後に、当ブロックでは、一緒に活動してくださる方を募集しています。興味のある方は、ぜひ一度連絡をお願いいたします。連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

原田　祐輔

2023年10月15日（日）に東京都作業療法士会 北多摩ブロックとして「府中福祉まつり（あったか府中ささえあいまつり）」に参加してきました。午前中は生憎の雨でしたが、午後からは天候が回復し、約50名の子供たちにフェイスペイントの体験をしてもらいました。さらに、ご一緒にお越しいただいた親御さんには、OTのPRとアンケートを実施しました。

＊作業療法士（OT）という職業を知っていますか
【知っている 52名　名前は知っている 23　知らない 27】

地域の方々と触れ合う貴重な機会であり、ブロック委員も大いに楽しむことができました。今後もこのような活動を通じて「作業療法」の魅力を発信していきたいと思います。本年もよろしくお願い申し上げます。

＊ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

三沢　理恵

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

当ブロックは、12月３日認知症アップデート研修を実施しました。時期的に感染症拡大の時期に入る事とインフルエンザ感染の拡大も巷では聞かれていたため、企画の段階で安全を期してオンラインの開催とさせていただきました。講師の先生方には基地局となる南多摩病院にお越しいただき、認知症の基礎知識のご講義とともにアップデート、またブロックオリジナル企画としては、鶴川サナトリウム病院のMCIへの取り組みを紹介していただきました。画面上ではありますが、オンライン、また基地局ともに盛り上がり、楽しく学べる機会となりました。

ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい　⇒　swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

編集後記

今回は都学会の案内が掲載されました。次回は第20回なのですね。前回の久しぶりの対面での学会が素晴らしかったので、また次回も期待しかしていません。今月号にはOTOも同封しました。専ら編集のみを行うニュースと違ってOTOはテーマを考えるところから取材先の交渉、記事の作成に至るまで全て広報部で行います。大変な分、やりがいもあります。ぜひ読んで周りのOT以外の方にもたくさん広めてくださいね。

広報部部長　水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◈東京都作業療法士会　事務局
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室
TEL：03-6380-4681　　FAX：03-6380-4684
◆東京都作業療法士会ホームページ　http://tokyo-ot.com/
◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com
※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。